巻頭言

統括看護部長　岡本 充子

DX による変革と「自律した看護」への挑戦

2025 年度は、「看護 DX の本格稼働」と「教育・労務環境の抜本的刷新」を両輪として活動を展開しました。テクノロジーを活用して業務を効率化するだけでなく、その先にある「看護師が自ら考え、判断し、患者に向き合える看護を実現すること」を目指し、一人ひとりの自律を支える組織づくりに取り組んだ一年となりました。

看護部目標管理： DX を現場で活かす組織へ

本年度は「業務をスマートに、生活にゆとりを」を目標に掲げ、看護 DX 推進部を中心に業務改善を推進しました。

診療報酬改定への対応として身体拘束最小化の取り組みを推進し、多職種カンファレンスの運用や記録テンプレートの統一を図ることで、組織的な身体拘束最小化体制を構築しました。また、2025 年 9 月 8 日には GE コマンドセンターが本稼働し、転院調整や退院支援の進捗、患者情報をリアルタイムで共有できる環境が整いました。これにより情報収集時間の短縮や退院支援の効率化、医療安全の向上につながる運用が始まりました。さらに、約 300 台の iPhone を導入し、チャットやインカム機能を活用した迅速な情報共有を実現しました。

2026 年の電子カルテ更新を見据え、看護計画と記録の連動、BOM・MEDIS に準拠したアウトカム志向のテンプレート整備など、記録の標準化と質向上にも着手しました。加えて、看護サマリーの自動作成や動画マニュアル作成など AI 活用の試行を開始し、新たな業務支援の可能性を広げています。

これらの取り組みは、平均残業時間の削減や休暇取得率の向上など、働き方改革にもつながりました。また、こうした現場の実践をまとめ、「働きやすい病院アワード 2025」では、職員が「わくわく」しながら働ける職場づくりをテーマに本選で発表を行いました。現場主体で進めてきた業務改善や働き方改革の成果を対外的に発信する機会となり、今後のさらなる活動につながる貴重な経験となりました。

人員変化（図 1・2・3・4）と定着支援：離職率の動向と課題

2025 年度は、これまで継続してきた働きやすい職場づくりや定着支援の成果が数字として表れました。看護部全体の離職率は 9.7%となり、前年度（12.2%）から大きく改善しました。一方で、新人看護師の離職率は 16.2%となり、前年度（12.8%）を上回る結果となりました。

定着支援では、全職員を対象とした人事アンケートやストレスチェックを実施し、職場課題の把握と改善に取り組みました。また、仲野副部長による新人全員への個別面談（メンター活動）を継続し、不安や悩みを早期に把握しながら職場適応を支援しました。

これらの取り組みを継続してきたものの、新人離職率は前年度を上回る結果となりました。新人離職率の上昇を真摯に受け止め、教育体制や職場環境、キャリア支援を含めたさらなる改善に取り組む必要性を改めて認識しました。

また、インドネシアから受け入れている特定技能外国人・技能実習生は 30 名となり、生活面・学習面を含めた継続的な支援体制が評価され、「こうち外国人材優良サポート事業者認証（星 3）」を取得しました。外国人スタッフは、現在では各部署における重要な戦力として活躍しています。

教育体制の一新：**チームで育て、自律を支える教育へ**

新人看護師の早期離職という課題を踏まえ、従来の教育体制を抜本的に見直しました。

新人育成では、「プリセプター」を「実地指導者」へ名称統一するとともに役割を明確化し、一人の指導者に依存するのではなく、部署全体で新人を育成するチーム支援体制を再構築しま

した。また、e ラーニングを学研へ一本化し、教育担当者が個別の育成プログラムを立案する体制を整えるなど、個々の成長に応じた教育への転換を進めました。

さらに、看護管理者への支援として外部コンサルタントによる個別面談を実施し、マネジメント能力の向上と心理的安全性の高い組織づくりを推進しました。認定看護管理者教育課程（ファースト・セカンド・サードレベル）への派遣も継続し、次世代の看護管理者育成にも力を注ぎました。

これらの取り組みを通して、教える・教えられる関係ではなく、互いに学び合いながら成長できる教育文化の醸成を目指しました。

次年度の課題

2025 年度は、DX の本格運用と教育・組織改革を推進し、「働きやすい職場」と「質の高い看護」の両立に向けた基盤づくりを進めた一年となりました。看護部全体の離職率改善という成果が得られた一方で、新人看護師の離職率は依然として大きな課題として残っています。

次年度は、導入した DX を現場でさらに活用・定着させ、看護師がその効果を実感できる業務改善につなげるとともに、新人教育体制のさらなる充実とキャリア支援を推進します。そして、一人ひとりが専門職として主体的に考え行動できる「自律した看護」を組織全体で支え、地域から選ばれ、職員からも選ばれる看護部を目指して取り組んでまいります。







